

まらり

Vol.39 2024/3



キャリア教育授業（青葉台小）
消防士小林さんに救急救命措置を学ぶ



キャンドルづくりの
ワークショップも



男女共同参画学級
保健師の佐々木睦美さんによる親子で学ぶ性教育講座



キャリア教育授業（広見小）
旭化成研究員の皆さんによる実験



わが子を守る防災セミナー
講師のあんどうりすさん

未来を拓き 「自分色の花」 咲かせよう



富士発・女と男のフォーラム
「ねんどでなかよし」



チャレンジセミナー
高校生スタッフによる企画運営協力



キャリア教育授業（岩松小）
自衛官高橋さんの訓練を体験



キャリア教育授業（吉原東中）
マジシャンOILさんとマジック体験

富士市では、小中学校での「男女共同参画の視点からのキャリア教育授業」をはじめ、新しい時代の主役となる子どもたちや若者を対象に、それぞれの個性と多様性を尊重する心を育てる事業を展開しています。

も
く
じ

- 【高校生と考えるLGBTQ】性の多様性を認め合って、誰もが生きやすいまちに。… 2～3
- 【話題のことば】SRHR(性と生殖に関する健康と権利)をご存じですか? …… 4
- 【トピックス】女性のデジタルスキル習得講座／女性に対する暴力をなくす運動
男女共同参画地区推進員ブロック事業 …… 5
- 富士市男女共同参画センター／富士市男女共同参画宣言都市 …… 6



性の多様性を認め合って、誰もが

富士市立高校(全校生徒・教員・保護者)を対象としたLGBTQに関する意識調査

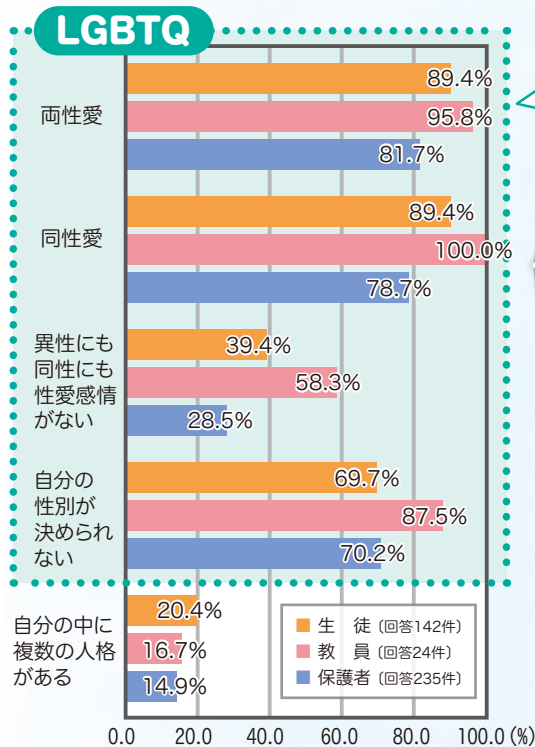


ジェンダーをテーマとした発表の最優秀班「Jeljel」

21HR 神尾姫奈さん、高橋幸海さん、望月亜美さん、村上咲喜さん(班長) ※写真左から

職場の雰囲気等によって答えやすさに差があるためばらつきがあるものの、LGBTQの人の割合は1.6~8.9%という調査結果もあり、身近な存在です。それにもかかわらず、打ち明けにくい環境であったり、「受け入れてあげる」という考えが存在していたりと、LGBTQの人にとって暮らしにくい社会ではないかと感じ、まずは現状を知り、これからの課題や目標を明確にするためにアンケート調査を行いました。

問1 LGBTQに当てはまると思うものをすべて選んでください。



上から4つめの項目までがLGBTQに当てはまりますが、「異性にも同性にも性愛感情がない」ことは、他の項目と比べるとLGBTQという認識が低いことがわかりました。また、4つの正解選択肢では、すべて教員の認知度が最も高く、生徒、保護者と続く傾向が見られます。

POINT

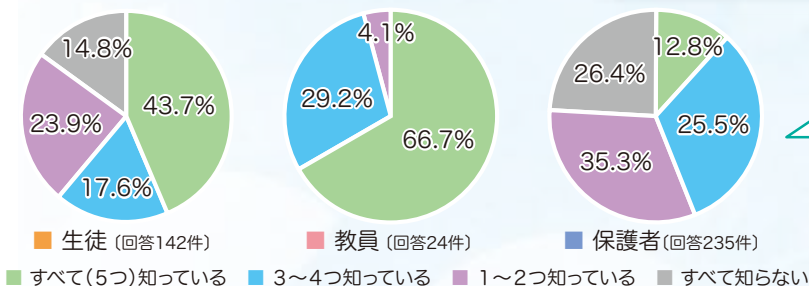
エルジービーティーキュー LGBTQとは

以下の頭文字を並べた言葉で、セクシュアルマイノリティの総称として使われることがありますが、この5つに限られるものではなく多様な性のあり方の一部です。

頭文字	用語	説明	属性
L	Lesbian (レズビアン)	女性を好きになる女性。女性同性愛者。	性的指向
G	Gay (ゲイ)	男性を好きになる男性。男性同性愛者。	
B	Bisexual (バイセクシュアル)	異性を好きになることもあれば、同性を好きになることもある人。両性愛者。	性自認
T	Transgender (トランスジェンダー)	心と身体の性が一致せず、生まれたときに割り当てられた性別とは異なる性別を生きる、生きることを望む人。	
Q	Queer(クィア)/ Questioning (クエスチョニング)	クィアは性的少数者の総称の一つ、クエスチョニングは性的指向や性自認が定まっていない、敢えて決めないなどの人。	

「性はグラデーション」と言われており、「生物学的な性(身体の性)」「性自認(心の性)」「性的指向(好きになる性)」「性表現(表現する性)」といった様々な要素が絡み合っただちづられています。

問2 LGBTQひとつひとつの文字の意味を知っていますか。



調査対象者によって認知度に差があり、生徒と教員では、「すべて(5つ)知っている」が最も多いのに対して、保護者は「1~2つ知っている」が最も多く、保護者の認知度が低いことがわかりました。

問3 もし自分の娘、息子がLGBTQだったときにどういった対応をしますか。(教員は生徒を想定した回答を含む)

保護者

- 受け入れる (66件)
「個性として受け入れる」「本人の意見を尊重する」等
- 話をする (28件)
「とにかく話し合う」「よく話し合い気持ちを伝えよう」等
- わからない (11件)
「戸惑う」「困惑し、すぐに対処できない」等

教員

- 受け入れる (5件)
「思いを尊重して対応する」「個性を尊重する」等
- 話をする (7件)
「どのようにしたいか聞く」「してほしい配慮を聞く」等
- サポートする (12件)
「生きやすいように配慮する」「快適に生活できるように支援する」等

生きやすいまちに。

富士市立高校では毎年、「市役所プラン」と題し、富士市の課題解決に向けた研究発表を行っています。

今年度、ジェンダーをテーマとした6班から、最優秀班に選ばれた4人とともに、多様性に満ちた性の在り方を尊重し、誰もが生きやすい富士市にするために、今私たちに何ができるかを考えました。

最優秀班「Jeljel」の皆さんに、今の想いを聞きました！

研究発表を通して、感じたことや気づいたこと、自分の考え方が変わったことがあったら教えてください。

神尾:調べる前はLGBTQの文字の意味も1~2個しか知らなかったけれど、「どういう人がLGBTQにあたるのか」とか、自分の身の回りにもいることを知ることができました。これからは、そういった意識をもって生活していきたいと思います。

望月:これまでは言葉しか知らなかったけれど、LGBTQの種類やそれぞれの悩み、偏見を知ることができました。偏見をなくすために一番大切なのはまずは「知る」ことだと思います。自分がこの研究発表を通して知ることができたように、周りにもその知識を広めていくことができればいいです。

LGBTQの方々を含め、誰もが通いやすい高校にするために、市立高校をどんな高校にしていきたいですか。

高橋:LGBTQの子に極端に優しくするとか特別扱いするのではなく、その子も普通に過ごして、周りも普通に接していただけるのがお互いに気を遣わなくていいかな。そうすれば、みんなが過ごしやすい学校になると思います。



高校生左から:高橋さん、神尾さん、望月さん、村上さん

神尾:全校生徒が何百人もいたら、LGBTQも含め、いろんな人がいて当たり前です。制服や様々なことに関して、みんなが「いろんな人がいて当たり前」という考えを持つことができれば、LGBTQも含め、みんなが生活しやすくなると思います。

望月:制服を性別に関係なく着られるようにジェンダレス制服にすることも大事だけれど、それを着ている人を特別扱いしたり、変な目で見たりすることがないように雰囲気づくりをする、みんなの意識を変えていくことが、まずは一番大切だと思います。

村上:LGBTQを常識にするのが一番の解決策かな。薬学講座や交通安全講座など、毎年行っている学校の講座と同じくらい、学校で話題に出すのが当たり前になったらいいなと思います。

富士市が今よりもっと誰もが暮らしやすいまちになるよう、期待することを教えてください。

高橋:自分の周りにはLGBTQについて詳しく知らない人が多かったけれど、親戚の中でもこういうプレゼンをしているという話をしていくなかで、徐々に広まっています。そういうふうな話題にすることで、少しのきっかけで、みんなにも知ってもらえると、徐々に意識が変わっていいまちになるのかなと思います。

村上:富士市に限った話ではないですが、SNSでは同性カップルの動画も多く上がっていて、もしかしたらフィルターがかけられているのかもしれないけれど、コメントはポジティブな意見がすごく多いです。今の若い人たちにとっては、そこまでアンチをするほどのことではないというのが常識になりつつあると思っています。今の若い人たちが、今の考えを持ったまま大人になったら、社会は変わるのかなと思います。

富士市で行っている取組の一部をご紹介します！

男女共同参画人権講演会

セクシュアルマイノリティに対する理解を深めるため、毎年、人権講演会を開催しています。今年度は、12月11日(月)に富士市消防防災庁舎にて、日本LGBT協会代表理事の清水展人(ひろひと)さんを講師にお迎えし、「男らしく、女らしくよりも『自分らしく生きる』～多様な性とLGBTQの人権～」と題して、ご講演いただきました。

女性として生まれた清水さんは、幼少期から自身の性別に違和感を覚え、女性らしい服装を強要されたり同級生に揶揄されたりしたことや、正直に将来の夢を発表することさえできず自己否定に苦しんだ過去を語りました。先入観で相手の性を決めつけないこと、そしてまずは「知る」ことの重要性を指摘。現在は結婚し、二児の父親である自らの経験を糧に、違いを認め合い、誰もが自分らしい生き方で幸せをつかむことのできる社会の実現を訴えました。

パートナーシップ宣誓制度・ファミリーシップ制度

令和3年度から同性カップルや事実婚の人などを対象に、お互いを人生のパートナーとして認め合い、相互に責任をもって協力し合って共同生活を送ることを約束した関係であることを市に宣誓し、市は宣誓を公的に証明する「パートナーシップ宣誓制度」を、令和5年度からは新たにパートナーシップの宣誓をした二人が、子や親などを家族として届け出ることができる「ファミリーシップ制度」を導入しました。この制度は、宣誓したお二人のパートナーとしての思いを尊重し、富士市として寄り添い、応援するものです。



講師の清水展人さん

世代を超えて 性別を超えて

誰もが自分らしく生きる富士市の未来に向けて、今、私ができることを一歩ずつ。